実践発表【中学校　表現・鑑賞】

生活や社会の美術とのつながりの中で、資質・能力を育む授業づくり

～「造形的な見方・考え方」を働かせる創造活動を通して～

秋田県能代市立東雲中学校　田中　絵里奈

1　提案趣旨

本提案は、美術科の学習を教室内で完結させず、生徒が「造形的な見方・考え方」を生活や社会の中で働かせることで、資質・能力を育む授業づくりを目的としている。

生活や社会の中の美術とのつながりの中で試行錯誤し、多角的な視点を得ることは、思考力や主題を生み出す力を高め、美術の働きへの実感的な理解を促すと考える。本アプローチを通じて、生徒が生涯にわたり美術を愛好するとともに、心豊かな生活を創造しようとする態度を育成することを目指したい。

2　実践の概要

「生活や社会の中の美術とのつながり」をテーマとして①美術館とのオンラインによる連携②地域の風物詩を基にしたデザイン③職人との伝統文化体験④地域の伝統行事と連動した共同制作という四つの実践を提示する。

第一に、「美術館とつながる」実践では、ICTを活用して遠方の美術館と教室をオンラインで結び、学芸員と TT で対話による鑑賞を行った。専門家との対話や身体感覚を伴う鑑賞を通じ、生徒一人一人の中に多様な美術文化への見方や感じ方を広げたり深めたりした。

第二に、「地域の人とつながる」実践では、地域の風物詩を文様化してエコバッグをデザインし、地域の方々へプレゼントした。これは美術を「コミュニケーションツール」として捉え、使う相手の立場や伝達の効果を考える中で、主題の創出や構想を練る力を高める試みであった。

第三に、「地域の職人とつながる」実践では、和菓子職人から伝統文化と技を学び、自分たちの感性を融合させた創作和菓子を考案した。優れたアイデアが実際に商品化される体験は、美術の学びが実生活を豊かにする「生きて働く知識・技能」であることの実感につながった。

第四に「地域の伝統行事とつながる」実践では、伝統行事の祭りで使用する横断幕の制作を美術科と「総合的な学習の時間」の連携で行った。また、共同制作を通じて他者と協働し、完成した作品を地域社会に還元することで、社会に果たす美術の役割の理解を広げることができた。

これら全ての実践において、ICT（タブレット端末）は他者の作品や考えに触れながら試行錯誤することを支える基盤として、また制作過程を記録するデジタルポートフォリオとして有効に機能していた。



実践例④「地域の伝統行事とつながる」

3　成果と課題

（１）成果

①資質・能力の「三つの柱」の総合的な育成

②美術を通じた「自己有用感」の高まりと「生涯にわたり美術を愛好する心情」の育成

③ICT 活用による主体的・対話的で深い学びの実現

（２）課題

①教育課程の編成の工夫と授業時数の確保

②指導と評価の一体化とプロセスの見取り

③外部連携を支える基盤づくりと教師の負担軽減